

2014年度杏林大学英語

解答

[I]

- (ア) ①
- (イ) ①
- (ウ) ①
- (エ) ③
- (オ) ①
- (カ) ③
- (キ) ④
- (ク) ①
- (ケ) ④
- (コ) ②
- (サ) ②
- (シ) ①
- (ス) ②
- (セ) ④
- (ソ) ①

[II]

- (ア) ④
- (イ) ①

- (ウ) ③
- (エ) ①
- (オ) ②

[III]

- (ア) ①
- (イ) ④
- (ウ) ①
- (エ) ②
- (オ) ④
- (カ) ①
- (キ) ③
- (ク) ④
- (ケ) ①
- (コ) ④

[IV]

- (英文1)
- (ア) ②
- (イ) ④

- (ウ) ④
- (エ) ③
- (オ) ②
- (カ) ②
- (キ) ③
- (ク) ②
- (ケ) ④
- (コ) ①

(英文2)

- (サ) ①
- (シ) ④
- (ス) ①
- (セ) ②
- (ソ) ③
- (タ) ④
- (チ) ①
- (ツ) ②
- (テ) ④
- (ト) ③

配点

I.各2点 (2×15) II.各2点 (2×5) III.各2点 (2×10) IV.各2点 (2×20)

[I]

(ア) ①

「約 6 年前、アラビア語を学ぼうと決めたが、非常に論理的な言語であるとわかる」
過去からみて未来の意志を表わすので **would** になる。

○**turn out to be** 「～であるとわかる」、○**supremely** 「非常に」

(イ) ①

「当局が言うように、強い社会ネットワークを持つことは我々の健康にとって不可欠である」

As S can tell you 「～が言うように」、全体の内容が一般論であることから **you** を入れるのがふさわしい。

○**crucial** 「不可欠な、極めて重大な」

(ウ) ①

「あなたにしばらくの間考えて考えてもらいたいのは、あなたがそれをした後に何が起こるかということです」

先行詞を含む関係代名詞 **what** が適切である。

○**for a moment** 「しばらくの間」

(エ) ③

「投票を 100%確実に秘密にしておきながら、どのようにして選挙システムを完全に検証可能にさせるのか」

接続詞 **while** 「～なのに」が入る。

○**completely** 「完全に、十分に」、○**verifiable** 「検証できる」、○**absolutely** 「100%確実に」

(オ) ①

「驚くべきことに、正しい環境とよい栄養素が与えられれば、ガン細胞は永遠に成長し続ける可能性がある」

補語 **that** が入る。

○**nutrient** 「栄養素」

(カ) ③

「ジャンクフード産業は、最も楽しいのは何かを把握することが実に優れている」
文法上、形容詞の **pleasurable** 「楽しい」が適切である。他の選択肢、**pleasure** 「楽しみ」
は名詞、**pleasurably** 「楽しく、愉快地に、満足して」は副詞である。

(キ) ④

「その新しい方法は素晴らしく見えたが、それと共にかなり大きな問題があった」
pretty big 「かなり大きい」のように、**pretty** は形容詞を修飾する。
e.g. **How are you?** に対して、**I am pretty good.** 「とても元気です」

(ク) ①

「一例を挙げれば、我々は食べるものにおいてサクサク感が大好きである」
○**to give you one example** 「一例を挙げれば」、○**crunchiness** 「サクサク感、シャキシヤ
キ感」

(ケ) ④

「我々には1つの解決策があり、質問に対するその答えを持っている」
the answer to question 「その質問に対する答え」、**to** がふさわしい。

(コ) ②

「それは不幸な男の人生であり、多分長い人生になるだろう」
chance は可能性や見込みを表わす。**Chances are (that) ~** 「多分~だろう」

(サ) ②

「残念ながら、権力は腐敗する。そして人々は権力を得て、権力に留まる為にたくさんの
悪いことをするだろう」
文脈から副詞 **unfortunately** 「残念ながら」が適切である。⇔**fortunately**
○**fortunate** 「幸運な」⇔**unfortunate**

(シ) ①

「作詞家として、どのようにメロディーと歌詞がどこからともなく来るのかよく知っている」
come out of nowhere 「どこからともなく来る、突然現れる」という意味である。
○**be familiar with ~** 「~をよく知っている」

(ス) ②

「著名人たちは自分たちの人気を正当な理由があって使うべきであるという信念を彼は述べている」

for a good cause 「正当な理由があって、大義名分の下に」という意味である。

○celebrity 「人気があってお金持ちの著名人」

(セ) ④

「私は最後の10年を苦痛と屈辱を受けて過ごしてきた」

spend + 時間 + doing の構文である。

○subject oneself to ~ 「～にさらされる」、○humiliation 「屈辱」

(ソ) ①

「朝食のシリアルと家庭用洗剤のような製品は、流通とマーケティングを通してスケールメリット（生産規模を拡大して原価を下げること）を得ている」

○product like ~ 「～のような製品」、○household cleaner 「家庭用洗剤」、○economics of scale 「生産規模を拡大することにより製造原価を下げること」

[II]

(ア) ④

A: 「卒業後は故郷に戻るつもりですか」

B: 「将来、何が起こるかわからないけれども、それはいつも私の計画していることです」

○There is no knowing what will happen. 「何が起こるかわからない」

(イ) ①

A: 「彼女と別れて以来、事態が変わってしまった」

B: 「そうだね。彼女があなたの親友と付き合っているのはどうしようない」

A: 「わかっている。だから、たった今彼を見ないようにした」

just や just now は過去時制と用いてちょっと前のことを表わす。したがって③と④は消去できる。

(ウ) ③

A: 「このネクタイは青色のシャツに合いますか」

B: 「合います。しかし、白いシャツを着るほうがいいとは思いませんか」

A: 「できればそうしたいのですが。しかしそれは洗濯する必要があります」

B: 「あなたは本当にもっと気を付けたほうがいいですよ」

(エ) ①

A: 「これは今まで見た中でもっともきれいな絵です」

B: 「電話をポケットに戻した方がいいですよ。ここでは写真を取れないことになっています」

A: 「教えてくれてありがとうございます。標示が見えませんでした」

be supposed to do ~ 「~することになっている」という意味である。

○warn 「警告する」

(オ) ②

A: 「我が家へようこそ。私たちは以前留学生をお迎えしたことはありません」

B: 「ここに居ることがとてもわくわくしています。学校は近くですか。迷いたくありません」

A: 「迷いませんよ。学校は、向こうのあの大きなビルのすぐ後ろですから」

○get lost 「迷う」, ○over there 「向こう」, ○just behind 「すぐ後ろ」

[Ⅲ]

(ア) ①

How many → How often / How many times

A: 「どのくらい映画に行きますか」

B: 「一ヶ月に二回です」

How often ~? は、頻度を尋ねている。

(イ) ④

one day → a day / per day

A: 「私の娘はこの病院であの医師と付き合っています」

B: 「彼女に一日一個のりんごを与えなさい」

a day / per day 「一日あたり」という意味である。

○run around with ~ 「~と付き合う」

(ウ) ①

seem → seems

A: 「今日はどうしましたか」

B: 「えっと、昨日から熱だけでなく、ひどい咳と喉の痛みがあります」

三人称単数の s が必要である。

(エ) ②

attaching → attached

「あなたの親切なコメントが組み込まれたファイルの改訂版が添付されているのを見つけてください」

find+O+C の構文であるが、本問において O の部分 “the revised version of the file ~” が長い為に、後ろに来て C+O となっている。C の部分 “attach” との関係は「添付されている」という受身の関係であるので attached となる。

○the revised version 「改訂版」、○incorporate with ~ 「~を組み込む、合併する」

(オ) ④

both → either / each

「その通りの両側に、多くの高いガラスの建物がある」

both sides であれば文法的に正しい。しかし本問では、単数形 side に合わせなくてはならない為、either 又は each 用いる。

○both sides / either side / each side 「両側」

(カ) ①

were running → was running

「一匹の黒白の犬は、彼が買い物から戻った時、一匹の鳥を追いかけていた」

三人称単数扱いになる、a black and white dog 「一匹の黒白模様の犬」がポイントである。

(キ) ③

2 year's → 2 years'

「その社長は、雇用しているすべての女性に全額給与で二年間の育児休暇を保証した」

複数名詞を所有格にする方法は、最後が S で終わっている単語は、最後にアポストロフィだけをつける。e.g. students' lounge 「学生ラウンジ」、girls' bathroom 「女性用化粧室」

S で終わらない複数形の名詞は単数のときと同じように's (アポストロフィと s) をつける。

e.g. children's books 「子供向けの本」、men's shoes 「紳士靴」

(ク) ④

any other lake → any lake

「その資料によれば、バイカル湖は日本のどの湖よりも大きい」

まず、バイカル湖はロシアにあり日本にないので、**Lake Baikal is larger than any lake in Japan.**となる。**any lake**「日本にあるいかなる湖」という意味である。日本にある一番大きな湖、琵琶湖と他の日本にある湖を比べる場合は本問のままでよい。つまり琵琶湖は日本に存在しているから **any other lake**「他のあらゆる湖」となる。

(ケ) ①

compliance with → comply with

「絶滅の危機にある植物と動物の生息地を守る為に、絶滅危惧種法に従わなくてはならない」

compliance「遵守」は名詞であるので、comply with「(方針などに)従う」が正しい。

○the Endangered Species Act「絶滅危惧種法」、○habitat「生息地」

(コ) ④

at the same time → at the same time as / as well as

「あなたの懸命な努力が報われて、国際的な視点だけでなく、地域医療に貢献するという精神を持った良い医師になることを願っています」

may を主語の前において祈願を表わす文である。e.g. **May you succeed! = I hope you will succeed.**

at the same time は「同時に」という意味になるので、at the same time as / as well as「～だけでなく、～と同時に」にする。

○international perspective「国際的な視点」

[IV]

(英文1)

和訳

インドの子供たち 7000 万人以上が、精神遅滞を引き起こす可能性のあるヨウ素欠乏症 (IDD) を患っている。全部で 2 億人がリスクにさらされている。アフリカの多くの場所で IDD は同様に脅威になっている。ほとんどのインド人にとって主なヨウ素の源は、塩である。インド人はたくさんの塩をよく摂取するが、インドで売られる塩のたった 15%しかヨウ素化されていない。製造段階で、塩にヨウ素カリウム(KI103)またはヨウ化カリウム(KI)をスプレーすることによってヨウ素は加えられる。塩は、ヨウ素の担体として効果的である為に、ヨウ素の最低 15ppm (100 万分の 15)は保持していなくてはならない。貯蔵や運搬

の厳しい状況の間に、インドでヨウ素化された塩でさえもそのヨウ素の含有量を失ってしまう。インドの料理の習慣はさらにヨウ素を失う原因となっている。インドにおける（またアフリカにおける似たような市場においても）挑戦すべき問題は、明らかである。貯蔵や運搬そして調理の間にヨウ素の含有量を失わないが、調理された食事を摂取する時にだけヨウ素を放つヨウ素化された塩をどのように我々は作り出すのか、ということである。

インドの塩における巨大なロスに取り組むための努力の中で、ユニリーバの子会社でヒンダスタン・リーバ株式会社（HLL）は、化学物質がマクロと分子のカプセル化によって保護されることを認識した。HLL は最初マクロのカプセル化（薬をカバーで覆うのに似ている）を試みた。このプロセスはヨウ素をそのまま保持したが、塩の結晶の極めて小さいサイズはそのプロセスを複雑にするので、ヨウ素の正確な量を保証することは困難だった。そこで HLL は分子のカプセル化をやってみることに決めた。K15（カリウムの K, 15ppm）と呼ばれている、そのテクノロジーは無機質層の間にあるヨウ素の粒子をカプセル化し、それはヨウ素を厳しい外的状況から守っている。その無機質層は高い酸性環境で（つまり胃のように 1 から 2 の pH レベル）相互作用し、分解するようにのみ作られている。ここでヨウ素は食べ物を摂取するときのみに放出され、それより前はほとんど放出されることはない。インドのスパイスや料理方法の下、このテクノロジーを実証する為のテストでは、放射性トレーサーを使って、インド原子力研究機関が開発した技術を研究者たちが最後の手段として用いることが求められた。そのトレーサーはヨウ素の化学的性質を変えないで、シミュレートされた料理過程を通してそれを検出することができた。商品として市場に出す為に、しかしそのように開発されたヨウ素化された塩はその魅力（白さ、手触り）を保持しなくてはならない。また言うまでもないが、従来からの方法（ヨウ素の担体として効果的ではない）を使っているヨウ素かされた塩とヨウ素かされていない塩と同等の価格にされなくてはならない。塩にヨウ素の分子カプセル化を応用するにあたっての技術的な進展は今では特許取得済みのプロセスである。ユニリーバは、IDD が一つの問題となっているガーナ、象牙海岸、ケニアのような他の国々に、HLL からのこの技術革新をすでに活用している。

<出題された単語・熟語・文法・センテンス>

- iodine deficiency disorder 「ヨウ素（ヨード）欠乏症」
- mental retardation 「精神遅滞」
- a total of 200 million 「全部で 2 億人」
- daunt 「ひるませる」 * =intimidate
- idolized 「ヨウ素化する、ヨード化する」
- spray salt with 「塩に～をスプレーする」
- potassium iodate 「ヨウ素酸カリウム」
- potassium iodine 「ヨウ化カリウム」

- to be effective as a carrier of iodine 「ヨウ素の担体として効果的である為に」
- retain 「保つ, 保持する」
- 15 parts per million 「100 万分の 15, 15ppm」
- harsh conditions 「厳しい状況」
- iodine content 「ヨウ素の含有量」
- account for 「～を説明している, 原因となっている」
- challenge 「挑戦すべき問題」
- ingest 「摂取する」
- address 「対処する, 取り組む」
- immense 「巨大な」
- macro molecular encapsulation 「マクロと分子のカプセル化」
- keep ~ intact 「～をそのまま保持する」
- exact amount 「正確な量」
- miniscule size 「極めて小さいサイズ」
- inorganic layers 「無機質層」
- particle 「分子, 粒子」
- interact with 「～と相互に作用する」
- dissolve 「分解する」
- highly acidic environment 「高い酸性環境」
- only negligibly 「ほんのわずかしかな」
- the test to validate this technology 「このテクノロジーを実証する為のテスト」
- resort to 「最後の手段として用いる」
- the Indian Atomic Energy Agency 「インド原子力研究機関」
- radioactive tracer 「放射性トレーサー」
- alter the chemistry 「化学的性質を変える」
- simulated 「シミュレートされた, 模擬実験された」
- detect 「検出する」
- to be marketable 「商品として市場に出す為に」
- retain 「保持する」
- textures 「手触り」
- needless to say 「言うまでもなく」
- must be priced comparable 「同等の価格にされなくてはならない」
- technical breakthrough 「技術的な進展」
- patented process 「特許済みのプロセス」
- innovation 「技術革新」

(ア) ②

15 parts per million of iodine「ヨウ素の100万分の15(15ppm)」とあるので、premium「プレミアム、保険の掛け金」と deficit「赤字」は選択肢から消去できる。前後関係を考えると maximum「最大」ではなく、a minimum of「最低～」が入る。

(イ) ④

subsidiary「子会社」の意味に一番近いものを、headquarters「本部」、branch「支店、支社」、extension「広げること、延ばすこと」の中から選ぶ問題である。

(ウ) ④

「著者はなぜ分子カプセル化がそのように重要だと感じているか」

最終文で述べられている内容から④「分子カプセル化は他の国々においても同様に、使われると思っている」が適切である。

- ①「化学的進歩は、発展途上国にとってのみ重要であると考えている」
- ②「発展途上国は自分たち自身の問題を解決できると信じている」
- ③「マクロのカプセル化を促進することに興味がある」

(エ) ③

「テキストによれば、正しいものはどれか」

第1段落第6文 Iodine is added by spraying salt with potassium iodate or potassium iodine during manufacturing.より、③「ヨウ素は、天然に塩には存在しない」がわかる。

- ①「あまりにも多く塩を摂取することは、メンタルの問題を引き起こす」
- ②「従来からのインドの料理は、ヨウ素の量の増加を引き起こす」
- ④「ヨウ素の損失によって許容範囲のパーセンテージは15%である」

○spray salt with「塩に～をスプレーする」、○potassium iodate「ヨウ素酸カリウム」、○intake「摂取する」

(オ) ②

「テキストによれば、塩をヨウ素化する際の主な問題は何か」

第1段落最終文から判断して、②「ヨウ素はそれが胃に入るまでずっと保持されたままでなくてはならない」が適切である。

- ①「塩の結晶はとても大きい為に、コーティングすることは困難である」
- ③「塩の運搬と貯蔵はインドでは難しい」
- ④「マクロのカプセル化は発展途上国にとってお金のかかるプロセスである」

○transportation and storage「運搬と貯蔵」

(カ) ②

「テキストから何が推測されるか」

第2段落10文 the iodized salt so developed must also retain its attractiveness (whiteness, textures)から、②「分子カプセル化は普通の塩と同じに見えて同じに感じる塩を製造する」ことが推測できるだろう。

- ①「マクロのカプセル化は、分子カプセル化と同様に効果がある」
 - ③「マクロのカプセル化は、生きている有機体で起こる作用である」
 - ④「マクロのカプセル化も分子カプセル化も高価すぎて役に立たない」
- organic process 「生きている有機体で起こる作用，生物の生長過程」

(キ) ③

「テキストによれば、誤っているものはどれか」

第1段落5文に Indians do eat a lot of salt とあるので、③「インド料理は塩を使わない」が誤りである。

- ①「IDD は、多くの国々で人に影響を与えている深刻な状態である」
- ②「HLL は手ごろな値段を付けたヨウ素化された塩を製造した」
- ④「無機質層は、胃の中でヨウ素を放出させた」

(ク) ②

「テキストによれば、インド原子力研究機関主な役割は何であったか」

第2段落第8文 The tests to validate this technology ~ required that the researchers resort to techniques developed by the Indian Atomic Energy Agency, using radioactive tracers. と第9文 The tracer did not alter the chemistry of the iodine but could detect it throughout the simulated cooking process.より、②「その過程で放出されたヨウ素の量をテストする為にテクノロジーを提供すること」が適切である。

- ①「塩をヨウ素化する為の方法を開発する」
 - ③「その料理過程において放射性廃棄物を助長する」*この stimulate は, facilitate や produce という意味にとるとよい。
 - ④「放射性トレーサーを使って塩を変化させること」
- validate 「実証する」, ○resort to 「最後の手段として用いる」, ○radioactive tracer 「放射性トレーサー」, ○alter 「変化させる」, ○detect 「検出する」, ○simulated 「シミュレートされた」

(ケ) ④

「次のうち正しいものはどれか」

第2段落第6文 in highly acidic environments (that is, a pH level of 1 to 2, as in the stomach)より、④「胃は本来、酸性環境である」とわかる。

- ①「インドで売られている塩はほとんどヨウ素化されている」
- ②「カバーで覆われた菓は、分子カプセル化の一つの例である」
- ③「ヨウ素は最も一般的にアフリカで発見される」
- naturally「本来」、○most commonly「最も一般的に」

(コ) ①

「このテキストにふさわしいタイトルを選べ」

インドなどでヨウ素欠乏症という問題があったけれども、化学技術を用いて従来の方法を改善としたという主旨であるので、①「化学がインドの生活を改善する」がふさわしいと思われる。

- ②「ヨウ素欠乏症」
- ③「塩はインドへ旅行する」
- ④「古い塩の為の新しい用途」

(英文2)

和訳

医師である人々は、科学的客観性は、他人が彼らにもたらす痛みを理解して解決する為の彼らの努力において、彼らを最も効果的にさせ、そしてこの困難な仕事によって傷つけられることから彼らを守るのは心の距離である、と信じるように訓練されてきた。それは極めて厳しい訓練である。しかし客観性は、同情または普通の人間性よりも、私たちより一層感情的に傷つきやすくさせる。客観性は、我々の周りのと我々の内部の存在するあらゆるものから私たちを切り離す。我々はそういう生活を送ることによって、その同じものを傷つけられる。それは、我々に届くことのできない癒しにしかすぎない。医師は苦勞して手に入れた客観性の為に大きな個人的代償を払う。客観性がすべてというわけではない。その客観的姿勢において、だれも自分自身の人間的な強さに頼ることはできない。誰も泣くことも、慰めを受け入れることも、意味を見つけることも、祈ることもできないのである。それによって心を動かされない人は、どちらにしても本当に自分らの周りにあるすべてのあらゆるものを本当に理解できないのである。

ウィリアム・オスラー卿は現代医学の父の一人であるが、客観性は本当の医師であるとしての重要な資質であると言ったとして広く引き合いに出されている。彼が実際言ったことは違って、それよりもはるかにもっと深いのである。そのオリジナルの引用はラテン語で *aequanimates*, これは「客観性」として普通翻訳される。しかし *aequanimates* は「心の静けさ」や「心の中の平和」を意味する。心の中の平和は確かに、日々苦しみに対

処している人々にとって究極的な資源（ポジティブな考えや想像が浮かんでくる源）である。しかしこれは、あなたの周りで苦しんでいるその人から、あなた自身距離を取ることで達成されるものではない。心の中の平和は、むしろ人生があなたに痛みを伴ったときに、物の見方、意味、そして知恵を習得するという問題である。それは心の質、精神の質というよりももっと精神的な質で霊的な質である。

数年前、ジョセフ・キャンベルは、神聖なものの体験について医師の為のワークショップを提供した。彼のプレゼンテーションのある時点で彼は、神仏などの像のスライドを次々と我々に見せた。たくさんの場所や時代から、絵画、彫像、陶器、tapesutor、ステンドグラスなど。私はこれらの一つの鮮明に覚えている。それはチューリッヒのリエデン美術館所蔵の「ダンシング・シヴァ（踊るシバ神）」であり、シバ・ナタ・ラジャのとりわけよくできている例であった。シヴァというのは神の男性的な面に付けられたヒンズー語の名前であり、これらの小さなブロンズ像はインドでは一般的であるが、この魅力的な彫像を以前に目にしたことがあったのは、我々の内数人だけであった。その神、シヴァは、ブロンズの炎のリングの中で踊る。彼のたくさんある腕は、精神的な生活の豊かさの象徴である。彼が踊るにつれて、すべての注意を彼の手の中にある一枚の葉っぱに向けた状態で、彼の片足は高く上げられ、もう片方の足は、地に身をかがめた小さな男の裸の背中によって支えられている。

医師は訓練を受けた観察者である。踊る神の偉大な美しさにも関わらず、我々全員がその小さい男とその葉っぱに考えを集中してしまった。そして我々はジョセフ・キャンベルに、その男について尋ねた。キャンベルは笑い出した。なおも笑いながら、彼は我々にこう話した。その小さい男は、生きている神が自分の背中で踊っていることすらわからないほど、物質界（この世）の研究にあまりにも夢中にさせられた人であると。我々全員において、また確かに、ほとんどの医師においても、その小さい男のようところが少しはある。あのシーンを思い出しながら、何がキャンベルの頭の中を駆け巡ったのかと不思議に思う。

人生は究極の先生であるが、我々はその最も深い教訓を発見するのはたいてい体験を通してであり、科学的研究ではない。臨死体験をから生還した人たちのある何割かの人は、人生の基本的な授業計画を垣間見ることができた共通の洞察について語っている。我々全員は、ある一つの目的の為に、ここにいる。つまり、知恵の中で成長してより深く愛することを学ぶことである。我々は、勝つこと同様に負けることを通して、持っている事と持っていない事によって、成功する事または失敗する事によって、これを行うことができる。我々がしなくてはならないことは、授業の為に何でも受け入れるという寛大な気持ちで顔を出すことである。

そして人生の目的を満たすことは、我々が何というカードを配られるかというよりむしろどのように我々がプレーするのかによるかもしれない。仏教教師のジャッコリン・フィールドはフロリダの年老いた両親と参加したビンゴで学んだある霊的な真理について語っ

ている。大きな字でその壁に「勝つ為にはその場にはなくてはならない」という、プレーヤーたちに強く自覚させるようなサインがあった。

<出題された単語・熟語・文法・センテンス>

- scientific objectivity 「科学的客観性」
- make ~ most effective 「~を最も効果的にさせる」
- demanding training 「厳しいトレーニング」
- vulnerable emotionally 「感情的に傷つきやすい」
- compassion or a simple humanity 「同情または普通の人間性」
- the life around us and within us 「我々の周りとは内部に存在するあらゆるすべてのもの、この世のもの」
- pay a terrible personal price 「大きな個人的代償を払う」
- hard-won 「苦労して手に入れた」
- not whole 「すべてではない」
- in the objective stance 「その客観的姿勢において」
- draw on 「頼る」
- untouched by 「~によって心を動かされない」
- essential quality 「重要な資質」
- ultimate resource 「究極的な資源」 * ポジティブな考えや想像が浮かんでくること
- on a daily basis 「日々」
- cultivate perspective 「展望を深める」
- spiritual quality 「精神的な質, 霊的な質」 * 人の心には魂や霊的なものが存在するという意味である
- mental quality 「心の質, 精神の質」 * 医学や心理学の言葉である ⇔ physical
- sacred image 「神仏などの像」
- vividly 「鮮明に」
- particularly fine example 「とりわけよくできている例」
- a little man crouched down in the dust 「地に身をかがめた小さな男」
- a person so caught up in the study 「その研究にあまりにも夢中にさせられた人」
- material world 「物質界, この世」
- go through someone's mind 「~の頭の中を駆け巡る」
- survive near-death experience 「臨死体験を切り抜ける」
- common insight 「共通の洞察」
- afford a glimpse of ~ 「~を垣間見ることのできる」
- show up 「現れる」

- openhearted 「心を開いた, 寛大な」
- deal 「トランプのカードを配る」 *deal- dealt- dealt
- describe a spiritual truth 「ある霊的真理について語る」
- a sign reminding the players 「プレーヤーたちに強く自覚させるようなサイン」

(サ) ①

he showed us slide after slide sacred images 「彼は神仏などの像のスライドを次々と我々に見せた」と述べられていることから①the sacred 「神聖なもの」とわかる。

- ② 「美」
- ③ 「ミステリー」
- ④ 「歴史」

(シ) ④

次の文に「我々全員がその小さな男とその葉に考えを集中してしまった」とあるので, ④「医師は訓練を受けた観察者である」がふさわしい。

- ① 「医師はたびたび客観性よりも美を賞賛する」
- ② 「医師は精神的世界 (霊界) について熱狂的である」
- ③ 「医師は約束を守る人である」
- adore 「賞賛する」, ○enthusiastic 「熱狂的」, ○a man of words 「約束を守る人」

(ス) ①

前段落に Life is the ultimate teacher. 「人生は究極の先生である」, life's basic lesson plan 「人生の基本的な授業計画」という言葉が出てくる。そして最終文には all we need to do is to show up openhearted for class. 「我々がしなくてはならないことは, 授業(= any situation)の為に何でも受け入れるという寛大な気持ちで顔を出すことである」と述べられている。成功する為にはあきらめてはいけないという主旨が推測できる。従って①「勝つ為にここにいないてはいけない」が適切である。

- ② 「良いものと悪いものを一緒に受け取らなくてはならない (楽あれば苦あり)」
- ③ 「他人を責める前に自分の失敗を知らなくてはならない」
- ④ 「どこかで線を引かなくてはならない」。

(セ) ②

「テキストによれば, 医師は何を信じるように訓練されてきたのか」
第1段落第1文より, ②「客観性は, 真の医師の不可欠な資質である」が適切と思われる。

- ① 「客観性は, 傷付くことから彼らを守る」のは, a mental distance である。
- ③ 「客観性は, 同情や普通の人間性よりも彼らを感情的に強くさせる」

④「客観性は、究極的に努力を必要とする訓練である」

(ソ) ③

「テキストによれば、ウィリアム・オスラー卿は何を言いたかったのか」

第2段落第5文より、③「心の中の平和は、医師にとって究極的な資源（ポジティブな考えや想像が浮かんでくる源）である」が適切である。

①「客観性は、患者を助ける為に医師の努力において最も効果的にさせる」

②「心の中の平和は、客観性よりもっと深い」

④「心の中の平和は、あなたの周りで苦しんでいる人からあなた自身を距離を取るによって達成される」

(タ) ④

「テキストによれば、ダンシング・シヴァ（踊るシバ神）は何を表わしているか」

第3段落第7文より、④「精神生活の豊かさ」とわかる。

①「ヒンズー三位一体」

②「ヒンズー陶器のよくできている例」

③「ヒンズーにおける典型的な男性の名前」

(チ) ①

「ジョセフ・キャンベルの返答から何が推測されるか」

第4段落第2文から第4文を読むと、①「医師は、物質界の研究に没頭しすぎるべきでない」が適切と判断できる。

②「医師は、生きている神が背中の上で踊っていることを知るべきではない」

③「医師は、客観性において細かいところにたくさん注意を払うべきである」

④「医師は、彼らの客観的なスタンスに責任を持つべきである」

○be absorbed in「～に没頭して」、○be responsible for「～に対して責任を負う」

(ツ) ②

「テキストによれば、臨死体験から生還した人々から我々は何を学ぶことができるか」

第5段落第3文から②「人生の目的は知恵の中で成長し、より深く愛するようになることである」が適切である。

①「我々は科学の研究を通して人生の最も深い授業をいつも発見する」

③「人生の基本的な授業計画は、臨死体験を通してのみ見つけられることができる」

④「勝つこと又は負けること、成功することまたは失敗することは、我々がどのようにプレーするかによる」

(テ) ④

「テキストによれば、次のうちどれが正しいか」

第2段落最終文より、④「ラテン語の *aequanimatas* が意味していることは、心や精神の質ではなく、精神的で霊的な質である」

①「客観性は、我々の内部に存在するあらゆるものから、我々の周りに存在するあらゆるものを切り離している」

②「ウィリアム・オスラー卿は、現代医学の父の一人として、たびたび誤って引用されている」

③「ラテン語の *aequanimatas* は『心の静けさ』という間違っただけの翻訳をよくされたものだ」

○ *mistakenly* 「誤って」、○ *wrong translation* 「誤訳」

(ト) ③

「このテキストから何が推測できるか」

第1段落で *Objectivity is not whole.* と述べられていることや、第2段落最後に *Inner peace is more a question of cultivating prospective, meaning, and wisdom even as life touches you with its pain. It's more a spiritual quality ~.* 「心の中の平和は、痛みを伴うときに、物の見方、意味、そして知恵を習得するという問題である。それはもっと精神的な質で霊的な質である」という主旨から、③「客観性の科学的特質だけでなく体験を通して得られる霊的な特質もまた医師にとっては、最低限必要なものである」がふさわしい。

①「医師は、客観的姿勢と心の距離を必要とするべきである」

②「客観性は、我々の周りにあるあらゆる存在を理解する為の唯一の方法である」

④「医学界は、真剣にますます客観性を取っている」

○ *bare essentials* 「最低限必要」、○ *medical establishment* 「医学会、医療機関」

< 出題された単語・熟語・文法 >

○ *turn out to be* 「～であるとわかる」

○ *supremely* 「非常に」

○ *crucial* 「不可欠な、極めて重大な」

○ *for a moment* 「しばらくの間」

○ *completely* 「完全に、十分に」

○ *verifiable* 「検証できる」

○ *absolutely* 「100%確実に」

○ *nutrient* 「栄養素」

○ *pleasurable* 「楽しい」

- pleasure 「楽しみ」
- I am pretty good. 「とても元気です」
- to give you one example 「一例を挙げれば」
- crunchiness 「サクサク感, シャキシャキ感」
- unfortunately 「残念ながら」 ⇔ fortunately
- come out of nowhere 「どこからともなく来る, 突然現れる」
- subject oneself to ~ 「～にさらされる」
- product like ~ 「～のような製品」
- household cleaner 「家庭用洗剤」
- There is no knowing what will happen. 「何が起こるか分からない」
- be supposed to do ~ 「～することになっている」
- warn 「警告する」
- get lost 「迷う」
- over there 「向こう」
- just behind 「～のすぐ後ろ」
- a day / per day 「一日あたり」
- the revised version 「改訂版」
- incorporate with ~ 「～を組み込む, 合併する」
- both sides / either side / each side 「両側」
- students' lounge 「学生ラウンジ」
- girls' bathroom 「女性用化粧室」
- comply with 「(方針などに) 従う」
- the Endangered Species Act 「絶滅危惧種法」
- habitat 「生息地」
- at the same time は 「同時に」
- international perspective 「国際的な視点」
- iodine deficiency disorder 「ヨウ素 (ヨード) 欠乏症」
- mental retardation 「精神遅滞」
- a total of 200 million 「全部で 2 億人」
- daunt 「ひるませる」 * =intimidate
- idolized 「ヨウ素化する, ヨード化する」
- spray salt with 「塩に～をスプレーする」
- potassium iodate 「ヨウ素酸カリウム」
- potassium iodine 「ヨウ化カリウム」
- retain 「保つ, 保持する」
- 15 parts per million 「100 万分の 15, 15ppm」

- harsh conditions 「厳しい状況」
- iodine content 「ヨウ素の含有量」
- account for 「～を説明している, 原因となっている」
- challenge 「挑戦すべき問題」
- ingest 「摂取する」
- address 「対処する, 取り組む」
- immense 「巨大な」
- macro molecular encapsulation 「マクロと分子のカプセル化」
- keep ~ intact 「～をそのまま保持する」
- exact amount 「正確な量」
- miniscule size 「極めて小さいサイズ」
- inorganic layers 「無機質層」
- particle 「分子, 粒子」
- interact with 「～と相互に作用する」
- dissolve 「分解する」
- highly acidic environment 「高い酸性環境」
- only negligibly 「ほんのわずかしかな」
- the test to validate this technology 「このテクノロジーを実証する為のテスト」
- resort to 「最後の手段として用いる」
- alter the chemistry 「化学的性質を変える」
- simulated 「シミュレートされた, 模擬実験された」
- detect 「検出する」
- to be marketable 「商品として市場に出す為に」
- retain 「保持する」
- textures 「手触り」
- needless to say 「言うまでもなく」
- must be priced comparable 「同等の価格にされなくてはならない」
- technical breakthrough 「技術的な進展」
- patented process 「特許済みのプロセス」
- innovation 「技術革新」
- maximum 「最大」
- a minimum of 「最低～」
- subsidiary 「子会社」
- headquarters 「本部」
- branch 「支店, 支社」
- extension 「広げること, 延ばすこと」

- scientific objectivity 「科学的客観性」
- make ~ most effective 「~を最も効果的にさせる」
- demanding training 「厳しいトレーニング」
- vulnerable emotionally 「感情的に傷つきやすい」
- compassion or a simple humanity 「同情または普通の人間性」
- pay a terrible personal price 「大きな個人的代償を払う」
- hard-won 「苦勞して手に入れた」
- not whole 「すべてではない」
- in the objective stance 「その客観的姿勢において」
- draw on 「頼る」
- untouched by 「~によって心を動かされない」
- essential quality 「重要な資質」
- ultimate resource 「究極的な資源」
- on a daily basis 「日々」
- cultivate perspective 「展望を深める」
- spiritual quality 「精神的な質, 靈的な質」
- mental quality 「心の質, 精神の質」 ⇔ physical
- sacred image 「神仏などの像」
- vividly 「鮮明に」
- particularly fine example 「とりわけよくできている例」
- a little man crouched down in the dust 「地に身をかがめた小さな男」
- a person so caught up in the study 「その研究にあまりにも夢中にさせられた人」
- material world 「物質界, この世」
- go through someone's mind 「~の頭の中を駆け巡る」
- survive near-death experience 「臨死体験を切り抜ける」
- common insight 「共通の洞察」
- afford a glimpse of ~ 「~を垣間見ることのできる」
- show up 「現れる」
- openhearted 「心を開いた, 寛大な」
- deal 「トランプのカードを配る」 *deal- dealt- dealt
- describe a spiritual truth 「ある靈的真理について語る」
- a sign reminding the players 「プレーヤーたちに強く自覚させるようなサイン」
- adore 「賞賛する」
- enthusiastic 「熱狂的」
- a man of words 「約束を守る人」
- be absorbed in ~ 「~に没頭して」

- be responsible for 「～に対して責任を負う」
- mistakenly 「誤って」
- wrong translation 「誤訳」
- bare essentials 「最低限必要」
- medical establishment 「医学会, 医療機関」